



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第36号

2007.1.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- 冬季閉館について
- 八幡湿原再生協議会の議事録が公開

活動報告

- 冬鳥の観察
- 千町原の草刈り

観察会案内

- アニマルトラッキング
- スノートレッキング

お知らせ

冬季閉館について

高原の自然館は11月26日より冬季閉館となりました。今シーズンもありがとうございました。次回開館は2007年4月25日です。冬季連絡先は北広島町芸北支所2階、自然史研究室（電話 0826-35-0115）となります。メールは今まで通りご利用いただけます。

八幡湿原再生協議会の議事録が公開されました

広島県のホームページにて、第7回および第8回八幡湿原再生協議会の議事録（PDF

ファイル）が公開されています。議事録のページを開いて「八幡湿原自然再生協議会」で検索してみてください。

【議事録のページ】

<http://www.pref.hiroshima.jp/kaigi/gijirokuindex.html>

活動報告

冬鳥の観察

開催日時：2006年11月11日（土）8:30

講師：上野吉雄

前日からの雨が残り、カッパを着たり傘をさしての観察会が始まりました。今回の講師は上野先生です。自然館の中の展示パネルを使って、今よく見ることができる冬鳥を中心に、鳥の名前、何を食べているか、今年の鳥の飛来状況などを聞きました。

はじめに土嶽地区へと歩きながら、道路沿いで見ることができる木や草の実を観察し、どんな鳥がその実を食べるかのお話を聞きました。エサによる鳥のくちばしの形の違いや、鳥によって運ばれる種のお話から、植物と鳥の密接な関係を知ることができました。また、冬鳥と留鳥との違いはエサとの関係が深く、冬でも食べることができる木の実や昆虫をエサとしている鳥は留まり、そうでない鳥は移動するため姿が見えなくなるそうです。土嶽地区ではところどころで足を止め、鳥の鳴き声を聞いたり姿を探したりし、先生に名前を教えてくださいました。

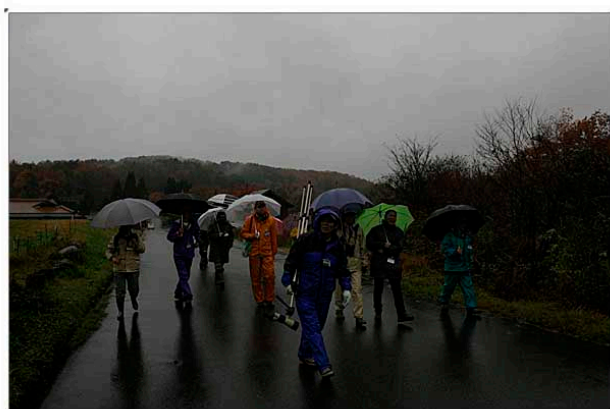
続いて尾崎谷湿原に移動し、新川ため池で水鳥を観察しました。コガモ・カイツブリ・トモエガモを見ることができました。また、湿原ではホオジロの美声を長い間聞くことができ、他にもクイタダキ・キジバト・ノビタキ・ヒヨドリの姿を見ることができました。

最後に田んぼの中でタゲリの姿をみた、との情報があり参加者全員でその場所に移動しました。少しの間でしたがタゲリが田んぼの中を歩き、飛び立っていく姿を観察することができました。

鳥の姿を見て、鳴き声を聞き、生態を知ることによって、よりいっそう鳥を身近に感じることができるようになったと思います。図鑑でしか見たことのない鳥たちを間近に見ることができ、これから鳥を観察することが楽しくなりそうです。[こ]



出発前、高原の自然館館内の展示を見ながら話を聞いた。



雨の中を歩く。



自然館近くのヤマボウシに作られたクマ棚を観察した。



土嶽でベニマシコ，ホオジロ，ミヤマホオジロなどを探す。



逃げていくカモ。

みなさんの印象に残った物

「紅葉がこの寒さで一段と色付いてきた事。」「多くの鳥がいたこと。」「タゲリが見られた事。(4)」「先生のお話し。あまりよそで聞けないお話しだったので。」「雨降りなのに鳥が多かった。」「今年は鳥の数が多い。」「寒い冬でも小鳥たちが活発に活動している姿。」「あるきながら鳥をさがしたこと。スコープで遠くの鳥を凶鑑を見るように見れたこと。」「注意して見ると多くの種類の冬鳥がいることにあらためて気付きました。」「ホオジロ♪」



続いて尾崎谷に移動。

参加したみなさんの感想（抜粋）

「冬鳥の数の多さに感心しました。」「鳥とエサとの関係が良く理解できてよかった。」「楽しかった。新しい事をたくさん教えて頂きました。」「植物の勉強もしなくては。」「集合時間が良かった」「ホオジロをちゃんと見た。かわいかった。」「今まで知らずにいた事がわかると新しい世界が広がって行く。」「鳥の話をしきるときに、食べるもの、行動範囲、などなど知らないことがたくさんでした。とても楽しかったです。」「回数を重ねる度に、新しい知識が加わりうれしいです。」「紅葉がきれいでした。鳥のことだけじゃなくて、植物のことを色々教えてもらえて面白かったです。」



尾崎沼ではコガモやトモエガモが浮かんでいた。カモに気付かれないように、そーっと観察。

活動報告

千町原の草刈り

開催日時：2006年11月19日（日）8:30

昨年・一昨年と快晴のお天気だったのですが、今年は間違いなく雨の予想でした。この時期の八幡に降る雨はとても冷たく、みぞれ混じりの場合もあります。前日にスタッフで話し合い、午前中で作業を終えることにしました。

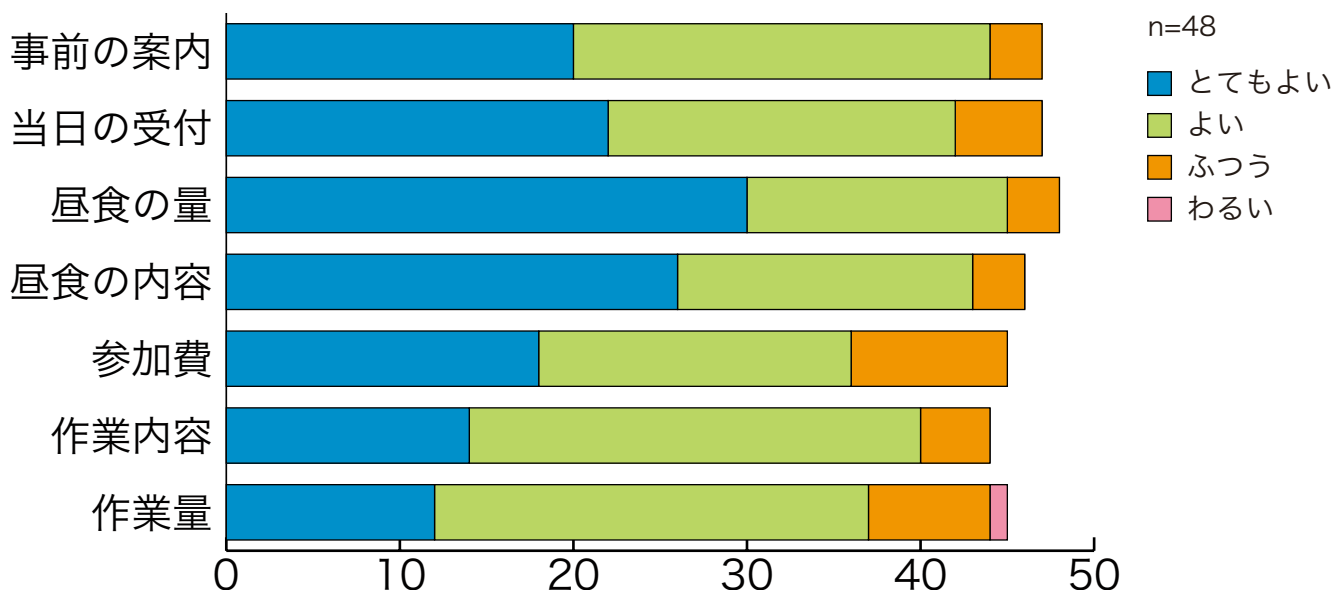
いよいよ迎えた草刈り当日の朝は、幸いにも曇り空でした。ただ、その曇り空を吹き飛ばすように、68人のボランティアの顔は生き生きとしていました。はじめに地域を代表して前さんから挨拶があり、島根県で森林管理のボランティアをされている大野さんからは安全面に関するレクチャーがありました。色分けした名札を胸に、それぞれが持ち場に向かいました。

チェーンソーで木を倒す人、草刈り機を使う人、草を集める人、食事をまかなう人、本部および記録の5班に分かれ、それぞれが担当する仕事を組織的に進めていきました。機械を使う人と集める人の動きを分けたことで、昨年指摘されたような危険な場面は無かったようです。作業中にはみぞれもパラパ

ラと降りましたが、適度に休憩を取りながら、楽しんで作業ができたように思います。

作業を終えて山麓庵にもどると、暖かい汁が待っていました。これは、かりお茶屋の杉原さんに頼んでいたもので、アイガモ農法に使ったカモウや芸北のイノシシ、そして何より今年の草刈り作業で出た草をたい肥に育った「はらっぱ一大根」が入っていました。ほどよい作業の後の汁はとてもおいしく、みんなの話もはずみました。中には大きな椀に3杯もおかわりした人もおられたようです。食事のあとは、ぜんざいを食べながらアンケートを書いていただきました。千町原のこれから、八幡のこれからについて、地元の人ともボランティアも一緒に話すことができました。

わずか半日の作業でしたが、現地を見るとずいぶん進んだように感じます。「雨だからほとんど進まないのではないか」「来た人は楽しんでくれるだろうか」というスタッフの心配は、どうやら取り越し苦労に終わったようです。千町原の草刈りは、来年からも引き続き行っていく予定です。草原を守り、地域の資源にする活動に、どうかご参加ください。[し]



各項目に対する参加者の評価

【事前の案内についての意見】

「ダイレクトメールを頂いた。」「ハガキによる確認。」
「あのハガキは、友人・知人に評判が良かった。」「**メール方式**が良かった。」「ホームページでもう少し多く！」
「内容が詳しく良かった。」「注意事項のはがきが良かった。」

【当日の受付についての意見】

「準備など、スムーズに行われている。」「少し停滞気味であった。」「No1の所は2箇所にしてほしい。」

【昼食の量についての意見】

「寒い中、大変おいしくいただいた。」「昨年が良すぎたのかも。」「**食器持参をもっとアピール**し、食事係の人も認識すればもっとよかった。」「シンプルで良い。」「当地食材をふんだんに入れていた。」「具のこだわりに味も格別に思いました。**みかん、ごちそうさま。**」**「質・量ともに予想外。」**「汁がおいしかったです。おなかいっぱいになりました。」

【昼食の内容についての意見】

「身近な食材を使ってとても良かった。」「おいしかった。かも汁もぜんざいもおいしかった。」「おいしかった。」
「寒い日に、野菜たくさんでおいしいかも汁、最高です。」「ぜ

んざい好評。」**「汁+ぜんざいの組み合わせがGood!!」**

【参加費についての意見】

「もっと高くてもよい。(2)」**「自分で参加している実感**がわかります。」

【作業内容についての意見】

「色分けして、担当するのは良い。」「天候に左右されて、人数がばらつくと思っていましたが、一定の人数が集い、大変楽しかった。」「**天気が続けば午後も。**」

【作業量についての意見】

「思ったより楽でした。」「天候が悪かったので午前中で終了し、丁度良かった。**もう少しやってもよいな、くらいがケガをしなくて良い**と思います。」
「少し時間が少なかった。」「午後もしてよい。」
「1日作業してもいい。」
「もう少し長時間でも良いのでは。」
「遠方から来ているので、午前中で終わり、良かった。」
「天気が良ければ、午後の部もあってOK。」
「片付けにもう少し時間をかければ、と思います。」
「雨で作業時間が短かったのが残念。」



観 察 会 案 内

アニマルトラッキング

開催日時：2007年1月21日（日）10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：長靴、弁当、ルーペ、メモ、おやつ等、
（あれば）かんじき・スノーシュー・クロスカントリー
用のスキー
定員数：30名
参加費：300円
（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

毎年恒例の雪上観察会です。雪原を歩きながら、動物たちの冬の生態を探ります。一見何もないように見える雪景色でも、動物たちはたくましく生活しています。食べ痕や足跡、糞などを観察することで、どんな動物が何をしているかを知ることができます。雪の上を歩くだけでも楽しいですが、そんな視点を持って、雪原に出てみませんか？寒いので、しっかりと着込んで来てくださいね。

スノートレッキング

開催日時：2007年2月18日（日）10:00
3月11日（日）10:00
集合場所：高原の自然館
準備：長靴、弁当、ルーペ、メモ、暖かい飲み物、
おやつ等、
（あれば）かんじき・スノーシュー・クロスカントリー
用のスキー
定員数：30名
参加費：300円
（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

冬のトレッキングに出かけませんか？大勢で雪の上を歩き、雪の上で暖かい飲み物を飲めば、それだけで楽しいトレッキングになります。他のシーズンにはノイバラが茂っていたり、湿原であるために踏み込めない場所も、雪が降れば安全に歩くことができます。夏よりも1m高い場所を歩けば、また違った発見もあります。寒さ対策だけは、しっかりしてきてください。



高原の自然館が閉館すると、よく「冬は何をしているの？」と聞かれます。自然館の学芸員は、冬眠しているわけではなく、事務室で作業を続けています。一番大切な仕事は、高原の自然館が発行している「高原の自然史」を編集することです。その他にも、夏の間収集した資料をまとめたり、学会発表の準備をしたりしています。こうして、春の開館に備えているのでした・・・

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/> staff@shizenkan.info
冬季連絡先：0826-35-0115（自然史研究室）